

部落解放同盟京都市協議会
議長 宮崎 茂 様

メッセージ

2020年度部落解放同盟京都市協議会定期総会のご開催を心よりお祝い申し上げます。また日々、ご活躍されておられる皆様に敬意を表するとともに、日頃は、私たち自治労京都市職員労働組合の活動に対し、ご理解とご協力を賜り、まことにありがとうございます。

先日、安倍首相は辞任する意向を表明しましたが、第一次安倍政権の唐突な辞任から13年、2012年に発足した第二次安倍政権は7年8ヶ月も続いたが、またもや突然の幕引きとなったのは、つい先日のこと。「安倍一強」と呼ばれた状況は、官僚の過剰なまでの忖度を生んだ。その結果多くの疑惑が出て、会見や国会質疑では説明責任を果たすどころか、首相をはじめ、多くの閣僚・官僚は政治責任を取らないありさま……。森友・加計問題や桜を見る会、公文書改ざんなど、幾度となく繰り返し見せられた光景である。直近で言えば新型コロナウイルス感染症に対する閣議決定された政策も急遽方針転換され、国民の疑問に説明することなく不安だけが広がる結果となった。私たちは、生活者・働く者に焦点を当てた政治を実現するため、さらなる取り組みを進めて行かなければなりません。

部落解放同盟京都市協議会の皆さんにおかれましては、今定期総会を契機とし、宮崎議長を先頭に、部落の完全開放、すべての差別撤廃に向けた、力強い運動を一丸となって邁進されることをご祈念申し上げ、連帯のメッセージとさせていただきます。

2020年9月29日

自治労京都市職員労働組合
中央執行委員長 森本 尚秀

